

私の探鳥地（3）（野鳥だより 62号 1985年12月）

オサル
長流川（伊達市）

福岡 研也

石狩川のような大きな川に限らず、たとえ名もないような小川であっても、川岸を気ままに探鳥して歩くのは実に楽しい。砂丘に囲まれた川口、葦原の湿地地帯に行く中流、切り立った岩肌に使まれた上流。それぞれに表情があり、それなりに面白さが異なって見あきることがない。

春夏の轉りのころもいいが、私はどちらかといえば真冬の川が好きである。ひょっとしてコミミズクやオオモズなどの珍客に逢えるかもしれないし、ベニヒワの何百もの群れに出会うかもしれない。私にとって冬は、心ワクワクの季節なのである。

伊達市の西側を流れる長流川は、市街地から1キロほどにあつて、川幅約30メートル。大滝村の谷間に源を發し、田園地帯を横切つて噴火灣に注ぐそれほど大きくない河川であるが、街近くの川としては、味気ないコンクリート製の堤防も殆どなく、比較的自然な環境を残してくれている。第一、日曜日の昼さがりでも、全くといっていいくらい人影はない。たまに釣り人が通るだけであり、環境も良く人もいないから、当然野鳥が多い。

上流にあつた鉾山の廢液のせいで、その昔は黄色く濁つた川として、つとに有名であつたが、廢鉾となつて20年以上もたつた現在では、うれしいことに水も澄んで、再び自然が整つている。せっかちで無精な私にとって、川岸の近くまで車で行けるといふのは何よりありがたい。少し風が強くと寒気がこたえる日なんか、車中探鳥を決め込む。

内灣に面した当地方は、雪が少く、真冬でも実をつけた草木が覆れてしまうことはない。時折、カシラダカ・アトリ・ミヤマホオジロなどの群れが長逗留して楽しませてくれる。春夏の長流川もまた捨て難い。十数年前に獵友会が放鳥したヤマドリは何代目かが、近くの南黄金というところで落鳥で見つかり繁殖が確認された。そのくらい温暖な地方であるから、本来道内には稀れなはずのダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、ササゴイなどのサギ類も珍しくなく、最近では、6・7月ころになると毎年見かけるようになってきた。コヨシキリ、オオジュリン、エゾセンニュウ、ホオアカ、ベニマシコ、ハギマシコ、カワセミ、ヤマセミ、クイナ、バン、イソヒヨドリ、ハヤブサ、チョウゲシボウ、オオタカ、ハイタカ、チュウヒ、コウライキジ、カツコウ、ホトトギス、ソリハシシギ、キアシシギ、オオジシギ、オシドリ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、カワガラスなど、季節さえ合えば、彼等に逢える可能性大である。

不思議なことに、少し南の長万部・八雲地方では繁殖もしているシマアオジが、ここでは見られない。灌木のまばらに生えたブッシュ地帯と散在するのだが原因はわからない。私の最も好きな野鳥だけに、何が不服なのか聞いてみたいものだが、ともあれ私にとって唯一の不満ではある。

長流川：国鉄伊達駅から約 2 キロ、道南バス「北海道製糖前」下車 300 メートル。川岸の駐車場から川口までの約 1 キロが探鳥コース。葦原と泥質の川原を歩くので長靴は必携。時間があれば、国道 36 号線以北の中流も面白い。